



|              |                                                                               |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | トリポリの現代ユダヤ・アラビア語の否定表現                                                         |
| Author(s)    | 依田, 純和                                                                        |
| Citation     | アラブ・イスラム研究. 2015, 13, p. 63-85                                                |
| Version Type | VoR                                                                           |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/105963">https://doi.org/10.18910/105963</a> |
| rights       |                                                                               |
| Note         |                                                                               |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## トリポリの現代ユダヤ・アラビア語の否定表現

依田 純和\*

### Negation in Modern Tripolitanian Judaeo-Arabic

The tradition of writing of Arabic in Hebrew script, i.e. Judaeo-Arabic, which began at least in the late tenth century, continued until the end of WWII. In contrast to the more stable Classical Arabic, Judaeo-Arabic has experienced its own historical development in many grammatical points while Later and Modern Judaeo-Arabic (from the 15th century onwards) is typically based on the local colloquial language. Until now research has concentrated mainly on mediaeval Judaeo-Arabic and studies of modern Judaeo-Arabic are relatively scarce. Modern Judaeo-Arabic is a mixture of the local colloquial dialect and Classical elements. In the modern Judaeo-Arabic of Tripoli there occur various means for expressing negation: ,לם, לא, ש ... מא, מוש, and ליס, among which לם and ש ... מא are used as free alternants to negate verbs, there being no restriction when one or the other of these has to be used.

The aim of this paper is to examine the negative expressions attested in the modern Judaeo-Arabic texts published in Tripoli (Libya) and to analyse those comparing them with those used in the colloquial dialects around Tripoli.

### 1. 序文

#### 1.1. ユダヤ・アラビア語

預言者ムハンマドの死後、イスラーム軍の進出によって中東・北アフリカの主要な都市の先住民たちの多くはイスラームとアラビア語を自らのものとして受け入れた。少数のキリスト教徒やユダヤ教徒はアラビア語を受け入れたものの、ズィンミーとして宗教は保持し続けた。10世紀ごろ古典アラビア語文法が確立すると、ムスリムたちはこれをコーランの言語と認識し、自らの文語の規範として現在まで継承している。一方非ムスリムにとってはコーランを背景にした宗教的な価値を受容しなかったため、規範意識はムスリムほど強くなかった。このため、彼らの文書には文法的な逸脱が多く認められる<sup>1)</sup>。

中でもユダヤ教徒はコミュニティー内部向けの文書としてヘブライ文字を用いたアラビア語文書を多く残している。ヘブライ文字による文語アラビア語（本論考で

---

\* 大阪大学 講師

1) このような文法的な逸脱を多く含む文語アラビア語を Middle Arabic と呼ぶ。Blau, *Emergence* p. 1 ff.

はこれを「ユダヤ・アラビア語」とする) の伝統は10世紀頃には既に始まっており、これが現在まで続いている。ユダヤ・アラビア語の黄金期は10世紀から12世紀ごろで、この頃の作品の中にはマイモニデス (1135?–1204) の「迷える人々の為の導き (*Kitāb dalālat al-ḥāʾirīn*)」やラビ・サアディヤ・ガオン (882–942) のモーセ五書のアラビア語訳である「注解 (*ha-Tafsīr*)」、イェフダ・ハ・レヴィ (1075–1141) の「クザリの書 (*Kitāb al-radd wa-al-dalīl fī al-dīn al-ḡalīl*)」など宗教や哲学などに関するものが多かった。また、中世の中東・ヨーロッパのユダヤ教徒社会では、コミュニティー内部で世俗的・宗教的な問題が生じた場合、それについてバビロニアのゲオニム<sup>2)</sup>に質問状が送られその回答が与えられた (このシステムを「レスポンス (*Heb. še'elot u-tešuvot*)」と呼ぶ)。アラビア語圏からの質問状の多くはこのユダヤ・アラビア語で書かれていたが、これはこの時代のユダヤ・アラビア語は原則として古典アラビア語をベースとしたもので、地域差がそれほど顕著ではなかったためである。つまり中世のユダヤ・アラビア語はアラビア語圏のユダヤ教徒の共通語として機能していたことになる<sup>3)</sup>。

一方、近代 (おそらく18・19世紀以降) のユダヤ・アラビア語はむしろそれぞれの地域の口語アラビア語をベースとしたものに変化したため地域差が広がり、もはやアラビア語圏の共通語としての機能は失われている。また特に「現代ユダヤ・アラビア語」の時代となる20世紀になると内容的にもシオニズムの啓蒙や近代的な生活の指針、教育、昔話などの世俗的なものや、宗教的なものにしても中世のように神学や哲学的なものというよりは、聖書の翻訳・注解などの宗教生活の基本の部分に関わるテーマが大部分を占めるようになった<sup>4)</sup>。

## 1.2. アラビア語ユダヤ教徒方言

アラビア語圏では、同一地域 (都市) に居住しているムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒がそれぞれ異なった方言を用いているというケースが多くみられる<sup>5)</sup>。アラビア語方言の分類においては地域差のみならず、口語アラビア語の発展に由来する生活様式による差も存在し、大きく定住民方言、遊牧民方言、村落方言などに分類され<sup>6)</sup>、それぞれ音韻論、形態論、統語論で特徴がある。例えばトリポリでは

2) バビロニアのスーラとブンベディタのユダヤ教教授長の肩書き。特に6世紀から11世紀中葉までユダヤ教の最高権威者 (*Encyclopaedia Judaica* 2nd ed. vol. 7, pp. 380-386)。

3) 実際には当時でも様々なレベルのユダヤ・アラビア語があり、Blau は 1. Some kind of Classical Arabic with Middle Arabic admixture, 2. Semi-Classical Middle Arabic, 3. Some kind of 'classicized' Middle Arabic のような区分があり、それぞれテキストの目的に応じて使い分けられているとしている。Blau によれば、レスポンスにおいてマイモニデスに対する質問はレベル 3 が多く、それに対してマイモニデスは 2 のレベルで回答しているが、このレベルの差は相互の理解を妨げるほどではない: Blau, *Emergence* pp. 25~26 を見よ。

4) Hary, *Multiglossia* p. 203.

5) Blanc, *Baghdad, Yoda, Tripoli, Cohen, Juifs de Tunis* 等を見よ。

6) Fischer & Jastrow, *Handbuch* p. 24. この差異は単にユダヤ教徒の方言にはヘブライ語、アラム語の用語が多く含まれるというレベルではなく、言語タイプが異なる場合もある。

ムスリムは遊牧民方言を、ユダヤ教徒は定住民方言を用いている<sup>7)</sup>。このように単にユダヤ教徒の方言にはヘブライ語、アラム語の用語が多く含まれるというレベルの差異ではなく、言語タイプに差が生じているので、トリポリではユダヤ教徒の方言とムスリムの方言が明確に区別される<sup>8)</sup>。このようなことから本論考ではユダヤ教徒の方言を特に「アラビア語ユダヤ教徒方言」と呼ぶことにする。

### 1.3. 本論考の目的

一般にユダヤ・アラビア語の研究は中世(8世紀~15世紀ごろ)<sup>9)</sup>の資料を対象としたものが多いが<sup>10)</sup>、一方、後期および現代ユダヤ・アラビア語(15世紀~)の文法研究はまだ少数である<sup>11)</sup>。トリポリに限らずアラビア語ユダヤ教徒方言の話者は1948年のイスラエル建国以降漸次イスラエルまたは欧米へと移住し、現在ではある程度まとまった数を擁するユダヤ教徒コミュニティはチュニジア、モロッコに限られる<sup>12)</sup>。

移住した話者の多くはその子弟にその母語であるアラビア語方言を伝承しなかったため、現在十分な言語運用能力を持つ者の数は減少の一途をたどっている。このため、各地のユダヤ教徒方言の研究(とくに文法記述と語彙の収集)は喫緊の課題となっている。この点から、そのユダヤ教徒方言に基づく現代ユダヤ・アラビア語の言語学的な視点からの研究も急がなければならない。

この現代ユダヤ・アラビア語が単純にユダヤ教徒方言を文字にしたものであれば、現在生存している話者に読み方を確認することができるが、上述の通り、実際には文語的な要素も含まれているため、読み書きするには特別な知識を必要とする。Tirosh-Becker, Konstantin はアルジェリアのコンスタンティーヌのユダヤ教徒コミュニティの現代ユダヤ・アラビア語の音韻論と形態論についての研究を行っているが、同様の知識を持つ者が生存している間に同様の研究を他の地域の現代ユダヤ・アラビア語でも行う必要がある。筆者はここにトリポリの現代ユダヤ・アラビ

7) ムスリム方言については Pereira Tripoli を見よ。

8) 例えば次の例を比較するとトリポリのユダヤ教徒方言とムスリム方言の差異が理解されよう。  
Tripoli Jewish dialect *šā ‘malē?* : Tripoli Muslim dialect *šīn dārt?* 「お前は何かをした?」。

9) Hary, *Egyptian Judeo-Arabic* pp. 200~ 203 によればユダヤ・アラビア語は 1. Pre-Islamic Judeo-Arabic, 2. Early Judeo-Arabic (eighth/ninth to tenth centuries), 3. Classical Judeo-Arabic (tenth to fifteenth centuries), 4. Later Judeo-Arabic (fifteenth to nineteenth centuries), 5. Modern Judeo-Arabic (twentieth century) の5つに時代区分される。上記本文でいう中世とは Hary の 2, 3 に相当する期間である。

10) 特に Blau, *Grammar*, id. *Emergence*, id. *Handbook*, Blau & Hopkins, *Orthography*, id. *Papyri* など。

11) Tirosh-Becker, Konstantin, Hary, *Sociolinguistic Setting*, Khan, *Late Egyptian* など。

12) 2008年現在でチュニジアには1000人、モロッコには2900人のユダヤ教徒が居住している(American Jewish Year Book Vol. 108 (2008) [http://www.ajcarchives.org/AJC\\_DATA/Files/AJYB822\\_WorldJP.pdf](http://www.ajcarchives.org/AJC_DATA/Files/AJYB822_WorldJP.pdf))。現在のリビア領に相当する地域では、トリポリ、ベンガジを始め特に地中海沿岸の主要都市および内陸部の村落にユダヤ教徒コミュニティが古くから存在したが、1948年のイスラエル建国と1969年の第3次中東戦争を機にその大部分がイスラエルやヨーロッパへ移住した。現在リビア領内に居住するユダヤ教徒は存在しない。

ア語の文法研究を加えることを考え、本論考はその嚆矢として特に否定表現を取り扱う<sup>13)</sup>。

なお、本論考はトリポリの現代ユダヤ・アラビア語の文献をもとに言語的分析を行うものなので、アラビア語方言研究の慣行に従い、引用資料にグロスを付さない。

## 2. 資料

本論考ではトリポリで20世紀前半に出版された次の9点の資料を利用する。「」内はタイトルの日本語訳。

- (1) דגל ציון 「シオンの旗」：隔週発行のシオニズム新聞。本論考では1920年1月2月30日号を利用した（略号 [DZ]）。
- (2) תרתיבאת בתי כנסיות 「シナゴグの規定」：シナゴグでの正しいふるまい方についての解説。イタリア語とトリポリの現代ユダヤ・アラビア語の対訳（略号 [ED]）。
- (3) פעלותיו בשנת מתר'צב והתר'צג 「1931-1932年活動報告」：トリポリ・シオニズム協会の文化部「ベン・イエフダ」運営の学校「ハ・ティクヴァ」の年報（略号 [PE]）。
- (4) אלציוניסם 「シオニズム」：シオニズム啓蒙パンフレット（略号 [ZI]）。
- (5) קבץ : למדו עברית 「コレクション：ヘブライ語を学ぼう」：トリポリのユダヤ教徒に対する現代ヘブライ語教育のための教材（略号 [LA]）。
- (6) ניזאם חברת ציון ת"ב 「トリポリ・シオニズム協会組織」：トリポリ・シオニズム協会の内規集（略号 [NC]）。
- (7) קואעד : לאגיל מועאמלאת קהל ישראל אלסאכנין פי עמאלת טראבלס 「法規：トリポリ県在住のイスラエルコミュニティーの行動のために」：イタリア植民地下のトリポリのユダヤ教徒に関する法規集（略号 [QA]）。
- (8) הגדה של פסח, ערב פסח 「過ぎ越し祭のハガダ（言い伝え）；過ぎ越し祭前夜」：ペサハの習慣の解説（略号 [EP]）。なお、この書籍は、著者を異にする複数の部分からなるもので、全編を通して表記法、文体に一貫性がない。なお、本文テキストの一部にはヘブライ語の母音記号（ニクダ）が用いられている。
- (9) מסאיל אלדי בנאדם ילזמו יערפהום 「人が知っておくべき諸問題」：衛生に関する啓蒙パンフレット（略号 [MA]）。

これらの略号に伴う数字は、テキストのページ番号および行数（ハイフンの後）を示す（[MA:9-3] テキスト MA 9 ページ3 行目）。また DZ は筆者が収集した資料のページ数を示す（日付別ではない）。また同新聞は1 ページが3 列からなる新聞で、1 列目（右列）から3 列目（左列）をそれぞれ a, b, c で示した（[DZ:74c-38] テキスト DZ 74 頁目の左列3 8 行目）。

---

13) 筆者は既に同方言の綴字法について考察を行った：依田「トリポリ」を見よ。

## 凡例

(1) 例文のヘブライ文字はアラビア文字を用いて下記の対照表のように転写し、( ) に入れて示した。この時ヘブライ語由来の語はアラビア文字に転写せずヘブライ文字のまま表記した。

|       |             |             |                    |       |
|-------|-------------|-------------|--------------------|-------|
| א = א | א = א       | ב = ב       | ג, 'ג, ג, ג (下記参照) | ד = ד |
| ה = ה | ו = ו       | ז = ז       | ח = ח              | ט = ט |
| י = י | כ, כ (下記参照) | ל = ל       | מ = מ              | נ = נ |
| ס = ס | ע = ע       | פ, פ (下記参照) | צ, צ (下記参照)        | ק = ק |
| ר = ר | ש = ש       | ת = ת       |                    |       |

ג, 'ג, ג, ג

DZ, PE, QA, ZI: ג = ج, ג = غ

ED: ג = ج, غ

EP: ג = ج, 'ג = غ

LA: 'ג, ג = ج, ג = غ

MA, NC: ג = ج, غ

כ, כ

全テキスト: כ = ك, כ = خ

פ, פ

LA, MA: פ = ف

LA 以外: פ = ف

צ, צ

全テキスト: צ = ص, צ = ض

## (2) 略号

例文にはその出典を略号で示した。

CA = Classical Arabic (古典アラビア語)

TRJ = Tripolitanian Jewish Arabic (トリポリのユダヤ教徒方言)

TRM = Tripolitanian Muslim Arabic (トリポリのムスリム方言)

TMJA = Tripolitanian Modern Judaeo Arabic (トリポリの現代ユダヤ・アラビア語)

TUM = Tunis Muslim Arabic

TUJ = Tunis Jewish Arabic

(3) トリポリ周辺のアラビア語方言からの参考例としていくつかの文献から例文を引用することがあるが、この時 Cohen, *Juifs de Tunis*, Singer, *Tripoli*, からの例文は、

転写方法を簡略化した。

(4) 例文に現れるヘブライ語由来の語はアステリスクで囲い、本稿末尾でまとめて意味を付した

### 3. 古典アラビア語の否定辞

#### 3.1. 名詞・形容詞・前置詞句・副詞句の否定

名詞・形容詞・前置詞句・副詞句の否定には ليس が用いられる<sup>14)</sup>。

#### 3.2. 動詞の否定

古典アラビア語では動詞を否定する辞詞としては ما، لا، لم، لن などが<sup>15)</sup>あり、次のような動詞と組み合わせて用いられる。

- (1) لا + 未完了形＝未完了の否定  
    لا + 要求法＝否定の命令
- (2) لم + 要求法＝完了の否定
- (3) لن + 接続法＝未来の否定
- (4) ما + 完了形・未完了形＝完了・未完了の否定<sup>16)</sup>

他にも否定に関わる要素として غير، عدم، بلا، أبدًا، قط などの名詞、前置詞、副詞があるが、本論考では取り扱わない。また TMJA に関しても以下に示す動詞の否定および名詞・形容詞・前置詞句・副詞句の否定辞のみを取り扱う。

### 4. TMJA の否定辞

本論考では次の5つの否定辞を取り扱う。

لا (la), (ما ... ش), (ما ... ش)<sup>17)</sup>, ما ... ש, (لم) לם, (מוש) מוש, (ليس) לים

#### 4.1. (ليس) לים

古典アラビア語では無動詞文<sup>18)</sup>の述部の否定の他、副詞句や前置詞句の否定にも用いられる。トリポリのユダヤ教徒方言に限らず、現代の口語アラビア語にはこの (ليس) לים と歴史的な関係のある語は存在しない。今回扱った9つのテキストのう

14) 未完了形の動詞と共に用いられることがあるが、これは動詞からなる述部を否定すると考える。

15) Fischer, *Grammar* pp. 171 ff.

16) *Ibid.*, p. 173. なお、古典アラビア語では「完了形・未完了形」という用語を用いるが、現代方言では必ずしも完了・未完了を示すわけではないので、通常それぞれ「接尾辞活用形・接頭辞活用形」という用語を用い、本稿もそれに従う。

17) מ (me) と表記される場合もある。

18) 本稿では定形動詞を用いずに構成される文を言う。

ち、DZ, EP, MA, ZI でのみ観察された。EP ではニクダ (母音記号) 付の לִיס *lis* が観察される。(脚注 22 を見よ)。

#### 4.1.1. 無動詞文の述部の否定

אחנאן לִיס טאלבין מנהם יכתבולנא אפעאל סיאסיא. (אחנאן לִיס טאלבין  
منهم يكتبولنا افعال سياسيا.) [DZ:73b-12]

「私たちは彼らに政治活動について書くようには求めている。」

וליס כארג מנהא (וליס خارج منها.) [DZ:73a-5]

「またそれはそこから逸脱したものではない。」

אל\*שבת\* מתמסכין פיה בשדדא קוייא אלדי לִיס פיהא כלל. (אשבת  
מתמסכין فيه بشدة قويا الذي ليس فيها كلل.) [DZ:74c-38]

「彼らはシャバトをこの上なく (弛まぬ強い力で) 厳密に守っている。」

אלמיכרובו אלדי הווא לִיס מומכן תכשיפהו בנצח אלעין... (الميكروبو الذي  
هووا ليس مومכן تكشفه بنظر العين) [MA:9-3]

「視力では発見しえない細菌」

ומא לִיס אכתר מן מדדא מתאע סנתין. (ומא לִיס אכתר מן מדדא מתאע סנתין.)  
[ZI:5-2]

「2 年という期間を超えないもの」

次は主語が קצדנא (قصدا), 述部が נתכלמו (نتكلمو) という定形動詞からなる文で<sup>19)</sup>、לִיס (ليس) がその述部を否定している。

אחנאן פִי נשר האד אלזטטין לִיס קצדנא נתכלמו צד אשכאץ אלדי...  
(אחנאן פִי נשר האד الخططين ليس قصدا نتكلمو ضد اشخاص الذي...) [DZ:76b-17]

「私たちがこの 2 行 (= 出版物) を出版する目的は、・・・である人々に対抗して話  
をすることではない。」

#### 4.1.2. 名詞の否定

וּנְזוּז פִי אֶרֶץ מִצְרָאִי אֶנְא וְלִיס מִלְךְ. (ونزوز في ارض مصر انا وليس ملك.) [EP:194-1]

「そして天使ではなく私たちはエジプトの地を移動した。」

#### 4.1.3. 前置詞句の否定

לִיס בתרביע אידין ובאדוי פִקט ירגע קום \*ישראל\* לוטנהו אלתאריכי.  
(ليس بتربع اليمين وبالدوي فقط يرجع قوم إسرائيل لوطنه التاريخي.) [ZI:2-9]

「腕組みをして議論を重ねることだけではイスラエル民族がその歴史的な祖国に帰  
ってこない。」

19) 口語アラビア語で用いられる表現で、主部と述部を結ぶ要素が存在しないという点で無動詞文である。

## 4.1.4. 文全体の否定

以下の EP からの例では **ליס** が文全体の否定に用いられる。

**ליס אַחְנָאן בְּנִצְצוֹ חֲתָא מְרָא וְחָדָא.** (ליס אחנאן נעצצו חתא מרא וחדא).  
[EP:137-2]

「私たちは一度も（それを水に）浸さない。」

EP の **הגדה של פסח שרח** の部分はいわゆる **שרח** (شرح) に属する文献である<sup>20)</sup>。**שרח** (شرح) とはヘブライ語の文献をアラビア語で説明するものであるが、いわゆる「翻訳」ではなく、ヘブライ語で書かれたテキストを機械的にユダヤ・アラビア語の単語で置き換えるというスタイルをとるのが特徴的で、アラビア語の単語によって文が構成されているが、その文自体は非アラビア語的になる<sup>21)</sup>。EP ではヘブライ語原文の後に TMJA による **שרח** (شرح) が付されており、ここではヘブライ語の **אֵין** が機械的に **ליס** (ليس) と置き換えられている<sup>22)</sup>。上記の例文の原文は **אֵין אָנוּ מְטַבְּלִין אֶפְּיִלוּ פָּעַם אַחַת** であり、これを「私達は水に浸す」の否定 (= 「私達は水に浸すものではない」) と解釈すると、**ליס** は動詞と言うよりは文全体の否定と考えられる。

なお、今回取り扱ったテキストでは副詞句否定の例は観察されなかった。

4.1.5. **ליס** (ليس) + 接尾代名詞

**ליס** (ليس) に文の主語を表す接尾代名詞が付く例が ZI と DZ で少数ながら観察される<sup>23)</sup>。今回調査したテキストでは3人称単数男性 **הוּ** (هو) または同女性 **הָ** (ها) のみが見れるが、これはそのテキストの性質上1人称や2人称を用いる文脈に乏しいこともその理由の一つであると考えられる。

**אֲצִיּוּנִים פִּי אַצְלָהוּ לִיסָהוּ חֲרָכָא גְדִידָא עֲנַד אִיהוּד ...** (الصيونييم في اصلهو  
[ZI:1-10] **ليسهو حرکا جديدا عند اليهود...**)

「シオニズムとは本来ユダヤ教徒にとって新しい運動ではない。」

**הוּא לִיסָהוּ מִן גִּיהַת אֲסַבָּאב שְׁלָצִיָּא.** (هووا ليسهو من جيهت اسباب شخصييا).  
[DZ:73a-15]

「それは個人的な理由によるものではない。」

20) Hary, *Sociolinguistic Setting* pp. 82. ff.

21) *Ibid.*

22) 他にも **וְאֶחָד שְׂאִינוּ יוֹדֵעַ לְשָׂאֵל** が TMJA で **וְאֶחָד לִיס הוּא יַעֲרַף לִינְשָׁד** (وواحد ليس هوا ) となる例が見られる。コンスタンティーンのユダヤ教徒コミュニティの **שרח** (شرح) では否定辞は専ら **ליש** (ليش) *layš* が用いられる。Tirosh-Becker, *Konstantin* p. 280.

23) 古典アラビア語では **لَيْسَ** を除外の辞詞として用いる場合に限り接尾代名詞を付けた **لَيْسَكَ**、**لَيْسَنِي** のような形も観察されるが (cf. Wright, *Grammar* II p. 343)、ここで紹介している TMJA の用法とは異なる。また聖書ヘブライ語の否定辞 **אֵין** も主語を表す接尾代名詞を付けることができる (**אֵינוּ** 「彼は～ではない」 など)。

מגלס אכומוניטא ליסהו מתלקקי חמלא כבירא עלא כתאפהו. (مجلس الكومونيتا ليسهو متلققي حملا كبيرا علا كتافهو.)

[DZ:73a-27]

「コミュニティ評議会はその肩に過大な負担を負うものではない。」

ליסהא עארפא (ليسها عارفا.)

[DZ:74c-27]

「彼女は知らない。」

וליסהו מתעדדי לא עלא תפאסר ולא \*תלמוד\* ולא גירהו. (وليسهو متعددي لا علا تفاسر ولا تلمود ولا غيرهو.)

[DZ:74c-30]

「また（その宗教は）注釈書、タルムードその他に従っているわけではない。」

接尾代名詞が主語の性を反映していない例がある。以下の例では主語は女性名詞 **גרידתנא** (جريدتنا) だが **ליס** (ليس) に付く接尾代名詞は男性形 **-הו** (هو) である。

גרידתנא ליסהו מביועא לזמא. (جريدتنا ليسهو مبيوعا لزما.)

[DZ:73b-19]

「私たちの新聞は公的なものとして販売されていない。」

## 4.2. מוש (موش)

TRJ を始め多くの現代アラビア語方言で *mūš* という形で観察される<sup>24)</sup>。

### 4.2.1. 無動詞文の述部の否定

\* בית הכנסת\* מוש מעמולא לדממת אלזגאר ליכוננו ילעבו ויעייטו פיהא.

(بيت הכנסת موش معمولا لدמת الزغار ليكونو يلعبو ويعيطو فيها.)

[DZ:8b-2]

「シナゴーグは子供が遊んだり叫んだりするために作られていない。」

מוש חק עלינא אנכאן מא נתצנתוש לעיטה. (موش حق علينا انكان ما نتصنتوش

العاطه.)

[DZ:76b-21]

「叫びを聞かないのであれば我々は正しくない。」

אנה מוש טביב. (انه موش طبيب.)

[MA:3-1]

「私は医師ではない。」

אלדי יחב יעמלהא יכון עמרו מוש אקל מן 8 סנה. (الدي يحب يعملها

يكون عمرو موش اقل من ٨ سنه.)

[MA:16-3]

「それをした者は8歳以下であってはならない。」

אזמאם מוש גליץ מן אליברו. (ازمام موش غليض من الليرو.)

[LA:5a-9]

「ノートは本よりも厚くない。」

24) Yoda, *Tripoli* p. 290, Pereira, *Tripoli* p. 460, Singer, *Tunis* p. 718, Cohen, *Juifs de Tunis* p. 268 を見よ。

#### 4.2.2. 名詞の否定

סוה יהוד סוה מוש יהוד (סוה יהוד סוה מוש יהוד) [MA:3-2]  
「彼がユダヤ教徒であろうとユダヤ教徒でなからうと」  
בית ספר יומי ללבנאת אלדי פיה יעללמו \*מורות\* ומוש \*מורים\* (בית  
ספר יומי للبنات الذي فيه يعللمو \*مורות\* وמוש \*مורים\*.) [PE:11-2]  
「男性教師ではなく女性教師が教える女子のための全日制 (?) の学校」  
\*דהיינו\* שמאע צפר אלי יכרג מן לעסל, ומוש שמאע מתאע חות אוולא  
שחם. (דהיינו شماع صفر الي يخرج من لعسل, وמוש شماع متاع حوت اوولا شحم.)  
[EP:72-7]  
「即ち魚油や動物油の蠟燭ではなく、蜂蜜からできた黄色い蠟燭。」

#### 4.2.3. 形容詞の否定

תעכיסאת מוש קלאל (תעכיסאת מוש קלאל) [PE:3-10]  
「少なくない反応」  
תעב מוש זגיר (תעב מוש זגיר) [PE:3-14]  
「小さくない疲労」  
מדדה מוש מחדודה (مدده موش محدوده) [QA:40-20 (S)]  
「制限のない期間」  
זי \*בית הספר התקוה\* יתעללם מוש אכתר מן 5 צאעאת פלגמע. (في  
בית הספר התקוה يتعلم موش أكثر من ٥ ساعات فليجمعه.) [PE:9-4]  
「『ハ・ティクヴァ』校で彼は週に5時間より多くない時間学んでいる。」  
סבב מוש ואער (سبب موش واعر) [MA:15-10]  
「難しくない理由」  
וכל דאפע אי מוש ראצי באמבלג אי חטטו עליה. (وكل دافع الي موش راضي  
بالمبلغ الي حططو عليه.) [QA:36-7]  
「彼らが定めた金額に満足しない支払者はだれでも・・・」  
לאזם יכוננו מוכודין בואסטא מוש אקל מן תלתין לעצאואת (لازم يكونو  
موخودين بواسط موش اقل من تلتين لعضاوات.) [QA:19-20]  
「それら(の決定事項)は30名より少なくないメンバーによって採択されなければ  
ならない。」

#### 4.2.4. 前置詞句の否定

מוש בכרתת לורק קימת אליברו ולא פי גלץ' אלכרש קימת אלראגיל.  
(מוש بكترت لورق قيمت الليرو ولا في غلض الكرش قيمت الراجل.) [LA:4a-3]  
「本の価値はページの多さではないし、男の価値は腹の大きさでもない。」  
מוש פי טריקהום (מוש في طريقهم) [NC:5-2]  
「彼らの方法ではなく」

אנכאן מוש עלא קעדא צחיחא ורסמייא. (אנכאן מוש עלא קעדא צחיחא ורסמייא.)  
[DZ:73b-4]

「もし正当な、また公的な基盤の上にはないのであれば・・・。」

מוש בלעכס (מוש בלעכס) [DZ:73a-32]

「逆にではなく」

תרביית אלזגאר מרבוטה פלאם ומוש פלאב. (תרביית הזגאר מרבוטה פלאם ומוש  
פלאב.) [PE:10-15]

「子供たちの教育は、父親ではなく母親に結びついている。」

מוש מתל זגאר צאבק (מוש מתל זגאר צאבק.) [PE:11-7]

「前述の子供のようにではなく」

#### 4.2.5. 副詞（句）の否定

כול יום תנין ומוש בעד (כול יום תנין ומוש בעד) [ED:13-13]

「毎月曜日でそれ以降ではなく」

האד אלמרץ ילצצק מוש בס ל\*בניאדם\* אללה זאדה אלקטאטס  
ואלכלאב. (האד המרצ הצצק מוש בס לבני אדם אלא זאדה القطاطس والكلاب.)  
[MA:17-7]

「この病気は人だけではなく猫や犬にも伝染する。」

#### 4.2.6. 接続詞とそれに続く節を否定

כאנו יעללמו מוש באש יחצצלו אגר. (כאנו יעללמו מוש באש יחצצלו אגר.)  
[PE:8-17]

「彼らが教えていたのは給料をもらうためではない。」

### 4.3. לם (ל)

古典アラビア語では要求法と共に用いて完了の否定を表現する。トリボリの現代ユダヤ・アラビア語に限らず、現代の口語アラビア語にはこの לם (ל) と歴史的な関係のある語は存在しない。

TMJA では接尾辞活用形、接頭辞活用形共にこの לם (ל) と用いることができ、それぞれの時制の否定を表現する。従って TMJA における「לם (ל) + 接頭辞活用形」は完了の否定ではない。このような古典アラビア語の用法と異なる לם (ל) の用法はすでに中世のユダヤ・アラビア語においても観察されている<sup>25)</sup>。なお、この לם (ל) は否定の内容を限定する他の要素と組み合わせられることがあるが、これについては下記 4.5.3.(4), 4.6.3. を見よ。

25) Blau, *Grammar* p. 142.

#### 4.3.1. (לם) + 接尾辞活用形<sup>26)</sup>

אקום איהודי ... לם סללם מעא כל דאלך פי ארגייה לירגע יסתמלך  
וטנהו אמכצור. (القوم اليهودي ... لم سللم معا كل دالك في الرجيا ليرجع يستملك

وطنهو المخصوص.) [ZI:1-14]

「ユダヤ民族は・・・それにもかかわらず固有の祖国を再び持つという希望を捨てな  
かった。」

לם ואפקונא פי קדאש מן מסאיל? (لم وافقونا في قداش من مسایل؟) [DZ:73a-34]

「どれほど多くの問題に私たちは合意しなかったか？」

סאבק לם דכלת פי גמעייט ציון. (سابق لم دخلت في جمعيت صيون.) [DZ:76c-10]

「かつて私はシオン協会に入らなかった。」

לם כאן ענדי גהד. (لم كان عندي جهد.) [DZ:76c-10]

「私は努力をしなかった。」

לם נקצנא לנתכלמו. (لم نقصنا لتتكلמו.) [DZ:73a-8]

「私たちは話そこねなかった。」

לם נסא \*ירושלים\*. (لم نسا يروشليم.) [ZI:5-22]

「彼はエルサレムを忘れなかった。」

לם כאן ממכן תכשיף אלמראץ. (لم كان ممكن تكشيف المراض.) [MA:9-7]

「病気の発見は不可能だった。」

#### 4.3.2. (לם) + 接頭辞活用形<sup>27)</sup>

形式上は古典アラビア語の لم + 要求法と類似しているが、前述のとおり TMJA  
の動詞には法の区別はなく、現在形の否定を表現するものである<sup>28)</sup>。

לם יקדרו יסממיו. (لم يقدرو يسمميو.) [QA:15-5]

「彼らは名づけられない。」

יחטו פי מטראח אלדי צגירה לם ילחקו. (يحطو في مطراح الدي صغيره لم يلحقو.)

[MA:22-13]

「彼らは子供の届かない場所に置く。」

ולם יכון מכתאר. (ولم يكون مختار.) [QA:30-27]

「それは選ばれないだろう。」

וואגב עלא כל אנסאן באש לם ילווח \*הצואה\*. (وواجب علا كل انسان باش لم

يلووح הצואه) [MA:10-6]

「人は皆大便を捨ててはいけない。」

ולם נשתגל פי \*הטבייה\*. (ولم نشغل في הטبييه.) [MA:3-1]

「また私は医学に携わっていない。」

26) Ibid.

27) Ibid.

28) Ibid., λ.

מדדא לס תפֹות סת שהור. (מדדא למ תפֹות סת שהור.) [QA:41-2 (S)]

「6 か月を超えない期間」

לם נקדרו ננכרו אן ... (למ נקדרו ננכרו אן ...) [DZ:73a-27]

「我々は・・・ということ拒否できない。」

ולם יחב לכיר לליהוד ולתאסיסאת איהודי. (ولم يجب لخير لليهود ولتاساسات

[DZ:73a-28] (اليهوديا.)

「またそれはユダヤ教徒達やユダヤ機関の利益を好まない。」

また、資料 MA にのみ見られる用法であるが、「לם (ל) + 接頭辞活用3人称」が3人称への否定命令を表現し、一般的な禁止を表現する

לם יעטיוהום ללואחד מוש פרטאס. (למ יעטיוהום ללואחד מוש פרטאס.) [MA:16-9]

「疥癬を患っていない者にそれらを与えてはならない。」

לם ישרב מן פם אשישמה. (לם ישרב מן פם אשישמה.) [MA:23-3]

「蛇口から飲んでではない。」

לם ילווח זבל. (למ ילווח זבל.) [MA:23-4]

「ごみを捨てないようにしなければならない。」

לם יחט בקרב צגירו טבאיך או מה סכון. (למ יחט בקרב צגירו טבאיך או מה

[MA:22-12] (سخون.)

「食べ物やお湯を子供のそばに置いてはならない。」

וכדאלך לס ימשי חאפי. (וכדאלק למ ימשי חאפי.) [MA:21-4]

「また同様に裸足で歩いてはならない。」

#### 4.3.3. לו (ל) + 疑似動詞<sup>29)</sup>

ここで扱う疑似動詞とは存在を表す疑似動詞である。これはもともと名詞を主語、前置詞+接尾代名詞を述語として「～は～のところにある」を表現していたが、この前置詞+接尾代名詞が「持っている」という動詞として意識された結果、動詞と同様の方法で否定されるようになったものである<sup>30)</sup>。但しアラビア語としてはかなり不自然なため用例は資料 DZ, MA に限られ、他のテキストでは **ψ ... م** (ما ... ش) による否定となる。

ולס ענדו<sup>31</sup>) בנאדס יכממס אנהו ... (ולמ ענדו בנאדמ יחממ אהו ...) [MA:15-1]

「また人は・・・と考えてはならない。」

29) Comrie, *Pseudoverb*.

30) Blau, *Grammar* p. 142 R では動詞と組み合わせられない例が示されているが (ואן ואן לם אנת) (وان (ولم احد ينفذ الحاج) ولم אחד ينفذ الحاج) 、疑似動詞との組み合わせの例は示されていない。

31) 疑似動詞 **عند** + 接尾代名詞 + 接頭辞活用形が「～せねばならない」を意味する用法については Yoda, *Tripoli* p. 196 を参照。

כלאם כיף האדה כתב דוטטור כאזאטי לם ענדהו יקולו ואחד פאהם.

(קלאם כיף האדה כתב דוטטור כאזאטי לם ענדהו יקולו אחד פאהם.) [MA:21-15]

「このようなことは一カザーティ博士は書いた一呑み込みの早い者が言うべきではない。」

לם ענדהם עצא כצוצי. (לם ענדהם עצא כצוצי.) [DZ:73c-14]

「彼らには特別なメンバーはいない。」

#### 4.4. מא (מא)

מא (מא) (または מה (מה)) は動詞に接尾する ש (ש) と組み合わせて通常の否定を表現する。この方法による動詞の否定は多くの現代アラビア語方言で観察される<sup>32)</sup>。ש (ש) 以外の要素との組み合わせについては下記 4.5. を見よ。

##### 4.4.1. ש ... מא (ש ... מא) + 接尾辞活用 : ~しなかった

過去の否定を表現する。

סבב אלדי מא קדרתש אבאדן נפהמהא. (سبب الذي ما قدرتش ابادن نفهمها.)

[DZ:76a-14]

「私が決して理解できなかった理由」

מא כאנוש יחלמו. (ما كانوش يحلمو.) [PE:4-2]

「彼らは夢を見ていなかった。」

\*בחורים\* אדי פצאבק מא עללמוש (בחורים الذي فصابق ما عللموش.) [PE:4-21]

「これまで学んだことのない男の子たち」

מא כללאתלנאש. (ما خللا تلناش.) [PE:0-11]

「彼女は私たちを放っておかなかった。」

מא וכזרש. (ما وخرش.) [PE:1-17]

「彼は遅れなかった。」

##### 4.4.2. ש ... מא (ש ... מא) + 接頭辞活用 : ~しない

(1) 現在の否定を表現する。

מא יערפש ידוי. (ما يعرفش يدوي.) [PE:9-8]

「彼は話せない。」

והייא מא תאערפשי. (وهييا ما تاعرفشي.) [EP:60-9]

「また彼女は知らない。」

32) TRJ: *‘laš ma žitš aməs?* “why didn’t you come yesterday?” (Yoda, *Tripoli* p. 289), TUJ: *ma žābš alxātəm* “il n’a pas apporté la bague” (Cohen, *Juifs de Tunis* p. 268), TUM: *ma-xdā-hā-ši* “er hat sie nicht geheiratet” (Singer, *Tunis* p. 718).

קאנון אטליאן מא יגברהם שי<sup>33)</sup>. (قانون اطليان ما يجبرهم شي.) [QA:5-12]

「イタリアの法律は彼らに強要しない。」

ממנוע תלקיט לפלוס אלדי מא יכונש לדממת אלמקאצד אלמדכורה.

(ممنوع تلقيط لفلوس الذي ما يكونش لدممت المقاصد المذكوره.) [ED:13-10]

「上記の目的でない金銭を集めることは禁じられている。」

כדאלך יכון ינצארלו אי מא ישדשי כף אלאזם לוציפא אלי פי ידו.

(كدالك يكون ينصارلو الي ما يشدشي كيف الازم لوضيفا الي في يدو.) [NC:8-5]

「自分の職務をきちんと務めない者にはそれが同じく適用される。」

נוצציו אלאבאת באש מא יכלליושי צגארהם לילעבו. (نوصصيو الابات باش ما

يخلليوشي صغارهم ليلعبو.) [MA:16-7]

「私たちは父親たちに子供を遊ばせないよう諭した。」

אחסן מא תבדאש. (احسن ما تبداش.) [LA:2a-3]

「始めない方が良い。」

אנשאלה מא יגאובנאש בהאד אלכלאם. (انشالله ما يجاوبناش بهاد الكلام.)

[DZ:76a-36]

「神が望めば彼はこのような言葉で答えない。」

- (2) 2 人称を主語とする動詞と組み合わせて否定命令を表現する例。TRJ を始め多くの現代方言で否定命令がこの方法で表現される<sup>34)</sup>。

מא תעמלש בלמכפי האש אלדי תתחששם תעמלו בלמכשוף. (ما تعملش

بلمخفي هاش الذي تتحششم تعملو بالمكشوف.) [LA:5b-2]

「人前でして恥ずかしいことを隠れてするな。」

- (3) 文脈によっては 3 人称と共に用いて「～するべきではない」を意味する。

אלבול \*צואה\* מא יתבזעוש. (البول وצואה ما يتبزعوش) [MA:15-1]

「小便や大便はまき散らされるべきではない。」

#### 4.4.3. 疑似動詞 (ما ... ש) + מא ... ש

現在の否定を表現する。

האדאף אלדי מא ענדוש עקל. (هاذاك الذي ما عندوش عقل) [LA:12a-4]

「知性のない者」

אחנאן איום מא ענדנאש נקולו אדי אנגמו נתסנדו עלא אדוול. (احنان اليوم

ما عندناش نقولو الذي انجمو نتسندو علا الدول) [ZI:6-14]

33) שי (شي) は ש (ش) に同じ。表記法上の変種。

34) TRJ *ma ġqatliyiš* “don’t kill (f.) him.” (Yoda, *Tripoli* p. 289), TRM *mā-taftaḥ-š al-bāb!* “N’ouvre pas la porte!” (Pereira, *Tripoli* p. 487), TUM *ma-dzūzū-š* “geh nicht nihein!” (Singer, *Tunis* p. 718), TUJ *ma-təktəbš* “n’écris pas” (Cohen *Juifs de Tunis* p. 139).

「今日では私たちが国家に依存しているというべきではない。」  
 מא ענדוש לקדרה ליתבבת דאלך. (ما عندوش لقدره ليتببت دالك.) [PE:11-1]  
 「彼にはそれを確かめる能力はない。」

#### 4.5. 否定表現に関わる他の要素との組み合わせ

上記 4.4. では特に מא (ما) は通常 ש (ش) と共に否定を表すが、この ש (ش) の位置に別の要素を置いて否定の主体や目的語などを限定する（誰も～しない、何も～しない）または除外（～以外～しない）を表現する。また למ (لم) は通常単独で動詞を否定するが、これも別の要素と組み合わせることができる。

##### 4.5.1. כאן (كان) : ～以外～でない<sup>35)</sup>

כאן (كان) は否定辞 מא (ما) と組み合わせられて「～以外～でない」を表現する。  
 אמא לאכן הייא מא מעמולא כאן בדממת עבאדת אלה בה. (اما لاكن هيا  
 ما معمولا كان بدممت عبادت الله به.) [DZ:8b-4]  
 「しかしそれはそこでの神への信仰のためにのみ作られている。」

##### 4.5.2. גיר (غير) : ～以外～でない (上記 4.5.1. を見よ)

מא ענדהו גיר יקרא אגראיד אמוהמא אלסיאסייא לים יהודייה. (ما  
 عندهو غير اقرا الجرايد الموهما السياسيا ليس يهوديه) [DZ:76a-39]  
 「彼はユダヤ系（の新聞）ではなく、重要な政治紙を読む以外すべきではない（＝読む他ない）。」  
 ומא ענדנא נקולו פיה גיר אנשאלה רבנא ידאמו עלינא. (وما عندنا نقولو فيه  
 غير انشالاه ربنا يداومو علينا) [DZ:73b-28]  
 「私たちは、神が私たちを長らえてくれますようにとのみ言うべきである。」  
 ומא ענדי גיר נתשככר. (وما عندي غير نتشككر) [DZ:76a-9]  
 「私は感謝以外すべきではない（＝感謝する他ない）。」

##### 4.5.3. חד (حد) : 誰も～しない

חד (حد) を用いた否定表現には次のようなものがある。また חד (حد) の部分は動詞に対して主語、目的語、補語になりうる。

35) トリポリ周辺のアラビア語方言では除外の部分には *kān* または *illa(əlla)* が用いられる：TRJ *ma nāšrəḥ kan əlqawa* “I drink only coffe.” (Yoda, Tripoli p. 289), TRM *mā-təlga 'əlla n-nkəd* “tu ne trouveras que la déprime.” (Pereira, Tripoli p. 423), TUJ: *ma nxāf əlla mən rabbi*. “Je ne crains que Dieu” (Cohen, Juifs de Tunis p. 268), TUM: *ma-yittākil illa f-iš-šta*. “das wird nur im Winter gegessen”, bikri *kānu ma-y'arrsu kān nhāṭ l-ixmīs* “früher pflegte man nur am Donnerstag zu heiraten” (Singer, Tunis p. 685)。

(1) **חַד ... מַא (חַד) (TJR *ma ... ḥadd*<sup>36</sup>)**

**וואַדא תרד באלהא באש מא תדוי מעא חַד.** (וזאדא תרד באלהא באש מא תדוי מעא חַד)

[EP:60-10]

「更に彼女は誰とも話さないよう注意している。」

この例文では **חַד (חַד)** の部分が動詞の補語となっている。

(2) **חַד מַא ... (חַד מַא) (TJR *ḥadd ma*)**

**ואידה כאן חַד מַא בלג לכתארייא ...** (ואידה כאן חַד מַא בלג לחתארייא ...)

[QA:19-22]

「また誰も過半数を得なければ・・・」

**חַד מַא יקדר ידכל.** (חַד מַא יקדר ידכל) [DZ:76b-1]

「誰も入ることができない。」

**לאכן חַד מַה פייקהם.** (לאכן חַד מַה פייקהם) [MA:2-13]

「しかし誰も彼らを起こさなかった。」

(3) **חַד ... (חַד) (חַד) (חַד) ...**

**חַד מנהם אתקדדם רסמי לענדנא.** (חַד מנהם אתקדדם רסמי לענדנא.)

[DZ:73b-1]

「また彼らのうちの誰も私たちのところに公的に申し出なかった。」

(4) **חַד ... (חַד) (חַד) ...**

次の例では主語として **חַד (חַד)** が用いられ、「誰も～してはならない」を表現している。

**לם יבוס צגיר חַד ולם יכללי חַד יבוס צגירו.** (לם יבוס צגיר חַד ולם יכללי חַד)

[MA:23-4] (יבוס צגירו.)

「誰も子供にキスをしたり、また誰にも子供にキスをさせたりしてはならない。」

#### 4.5.4. **חַד (חַד) : 何も～しない**

TRJ を始め多くの現代方言で *ma* と *šay* の組み合わせで「何も～しない」を表現する。

**חַד (חַד)** を用いた否定表現には次のようなものがある。また **חַד (חַד)** の部分は動詞に対して主語、目的語、補語になりうる。

36) TRJ: *ma ‘aš ašib ḥadd* “she found no longer anyone.” (Yoda, *Tripoli* p. 289), TUM: *ma-ysālu ḥadd* “keiner fragt ihn danach” (Stumme, *Tunis* p. 715), TUJ: *ma šāf ḥadd* “il n’a vu personne” (Cohen, *Juifs de Tunis* p. 268).

37) テキストによって **חַד (חַד) / חַד (חַד)** のような表記も確認される。

מא ... שי (TJR *ma ... šayy*<sup>38</sup>) (ما ... شي)

מא כאנוש יערפו מנהא שיי. (מא כאנוש יערפו מנהא שיי) [PE:4-8]

「彼らはそのことを何も知らなかった。」

ותהדדהם באש מא יקדרוש יפעלו שיי. (وتهددهم باش ما يقدروش يفعلو شي.)

[PE:10-19]

「彼は彼らが何もできないように彼らを脅した。」

מא עאדש רינא שאי. (ما عادش رينا شاي.) [DZ:76a-27]

「私たちは最早何も見えなかった。」

#### 4.5.5. מא (عمر. ما) לעמר- מא

TRJ を始め多くの現代方言で接尾辞活用形と共に用いて「～したことがない」を、接頭辞活用形と共に用いて「決して～しないだろう」を意味する<sup>39</sup>。

ואיהוד עמרהם מא כממו עלא תכריג האדי אלאשתיאקאת ללפעל.

(واليهود عمرهم ما ختمو علا تخريج هادي الاشتياقات للفعّل.) [ZI:2-5]

「またユダヤ教徒達はこの行動への欲求を表出させることについて考えたことがない。」

עמרו מא יופה. (عمر ما يوفه.) [LA:12a-1]

「それは決して終わらない。」

#### 4.5.6. 否定の要素を強調する חתא (حتا) との共起

חתא (حتا) は否定文において主語・目的語の名詞の前に置かれ、否定を強調する(「いかなる～も(～しない)」)機能を持つ。特に חד (حد) と共に「誰一人として(～しない)」、שי (شي) と共に「何一つとして(～しない)」のような意味になる。

חתא חד חט באלו. (حتا حد حط بالو) [PE:0-8]

「誰も注意しなかった。」

ארביין ול\*גבאים\* לס יקדרו יצרפו חתא שי מנהם לילהם. (اربيين ول\*لغبايم\* لم يقدر يصرفو حتا شي منهم ليلهم.) [ED:14-6]

「ラビたちとガバイ(徴税人)達は自分たちのためにそこから何一つ支出してはならない。」

חתא זנס<sup>40</sup> צלה ג'דידה מה תקדר תנחל ללעבאדה אלעמומייה. (حتا زنس صله جديده مه تقدر تنحل للعباده العمومييه.) [ED:9-2]

「公共の信仰のため、いかなる新しいシナゴークも開かれ得ない。」

38) TUI: *ma ʿta šayy* “il ne lui a rien donné” (Cohen, *Juifs de Tunis* p. 268).

39) TRJ: *ʿəmri ma ḡḡarək* “I will never harm you”, *ʿəmri ma ḡḡarək ma ḡḡarək ma ḡḡarək* “we never went out of our house.” (Yofa, *Tripoli* p. 265), TUI: *ʿomri ma ḡḡarək ma ḡḡarək ma ḡḡarək* “Je ne lui ai jamais adressé la parole” (Cohen, *Juifs de Tunis* p. 268).

40) この זנס (زنس) は「いかなる～」を意味する。

ירד באלו באש מא יגדץ חתא מאעון (ירד באלו באש מא יגדצו חתא מאעון).  
[EP:63-1]

「いかなる食器も（水に）浸さないよう注意すべきである。」

ומא פיהשי חתא זנס וסד. (ומא פיהשי חתא זנס וסח). [EP:53-11]

「またそこには汚れたいかなるもの（＝いかなる汚れ）もない。」

ליס אֶחָנָאן נְגַצְצוּ חַתָּא מְרָא וְחָדָא. (ליס אחנאן נגצצו חתא מרא וחדא).  
[EP:137-2]

「私たちは一度たりとも水に浸からない。」

לם תעתרף בחתא כתאב אכר דון אלכמסא \*ספרים\* \*פרשה\* מתע  
\*משה רבינו\*. (לם תעתרף בכתא אכר דון אלכמסא ספרים פרשה מתע משה  
רבינו). [DZ:74c-36]

「それはモーセの五冊の本、（即ち）我らの師モーセの注解書以外のいかなる書物も  
認めない。」

#### 4.6. לא (لا)

形態的には CA の لا に対応する。TRJ では「AでもBでもない」という文脈でのみ用いられる。CA とは異なり「לא (لا) + 動詞」だけの組み合わせは殆ど用いられず、多くの場合別の否定辞と共に「～は～でも～でもない」、または حد (حد < CA أحد) と共に「誰も～しない。」などを表現するのに用いられる。

##### 4.6.1. لا (لا) 単独の用法

無動詞文の否定として1例のみ観察された。

בעד אֶפִּין עאם טואל מתאע עישא קאצחא ומררא אדי לא פיהא קיאץ  
אקום ליהודי בלכאמל. (بعد الفين عام طوال متاع عيشا قاصحا ومرا الذي لا فيها  
قياس القوم ليهودي بالكامل). [ZI:6-3]

「ユダヤ民族への配慮が全くなかった厳しく辛い長い生活の2000年の後に」

##### 4.6.2. لا ... ولا (... لا) : ～も～もしない

複数の動詞の否定に用いられる<sup>41)</sup>。

לאתידו בוריקו לא יקתל אדודה אלמדכורה ולא ימנע אלעין מן אלמרץ.  
(لا تيدو بوريكو لا يقتل ادوده المذكوره ولا يمنع العين من المرض). [MA:22-4]  
「ホウ酸は上に述べた虫を殺さないしまた病気の邪視を妨げない。」

41) TRJ *la čəqčəla wla čərmiā* “do not kill her and don’t throw her out” (Yoda, *Tripoli* 290), TRM *la rğəd la xəlla mən yurgud* “Il n’a pas dormi, ni laissé les autres dormir” (Pereira, *Tripoli* p. 406), TUM *la taʿraf-ni la naʿf-ik* “wir haben miteinander nichts zu tun” (Singer, *Tunis* p. 721), TUJ *la yərtah w-la yxalli škūn yərtah* “il ne repose pas et ne laisse personne se reposer” (Cohen *Juifs de Tunis* p. 267).

הוממא \*בחורים\* אלדי פצאבק לא עללמו ולא יערפו טריק אלתעלים.

(هوَمَا بِحُورِيمَ الَّذِي فَضَابَقَ لَا عَلَّلْمُو وَلَا يَعْرِفُو طَرِيقَ التَّعْلِيمِ.) [PE:8-14]

「彼らはこれまで教えたこともなく、また教育の方法も知らない青年たちだ。」

לם יקדרו יסמיו ולא יתסמאו לא פל כומיסיון ולא פי גירו כאן אלי

עמרהום תמנטעש לעאם ופוק. (לَمْ يَقْدَرُوا يَسْمِيُو وَلَا يَتَسْمَاوُ لَا فُلْ كَوْمِيسْيُونُ وَلَا فِي

غَيْرُو كَانَ أَلِي عَمْرَهُومُ تَمْنَطَعُشْ لِعَامٍ وَفُوقَ.) [NC:3-8]

「彼らは委員会においてもその他においても、18歳以上でなければ(他人を)任命できないしまた任命されることもできない。」

最後の例文は同時に動詞に依存する2つの前置詞句を否定している(下記 4.6.4.を参照)。

#### 4.6.3. ~でも~でもない (לם / לא ... לא ... ולא ...)

動詞に依存する複数の前置詞句を否定する。לם / לא (לם / לא) の後には動詞が来る。今回取り扱ったテキストでは複数の前置詞句の否定しか確認されなかったが、動詞の目的語としての複数の名詞などを否定する可能性もある。

וצצאנא באש לם נזווגו אלבנת לא מעא עמהא ולא מעא עזיזהא. (وصصانا

بَاش لَمْ نَزَوُوجُو الْبَنَاتِ لَا مَعَا عَمَهَا وَلَا مَعَا عَزِيْزَهَا.) [MA:4-8]

「彼は私たちに娘を父方のおじや母方のおじと結婚させないようにと諭した。」

ואחד אלדי ענדהו צגיר מריץ לם יבעתהו לא לצלא ולא לסכולה. (واحد

الَّذِي عِنْدَهُو صَغِيرٌ مَرِيضٌ لَمْ يَبْعَثْهُو لَا لَصَلَا وَلَا لِسْكُولِهِ.) [MA:17-10]

「病気の子供を持つ者は、その子をシナゴグや学校にやってはいけない。」

ולאסאמי אלדי מא יכמלוש לא ב(ה) ולא ב(ת) מתל... (ولاسامي الذي ما

يَكْمَلُوشْ لَا ب(ه) وَلَا ب(ت) مَتَل....) [LA:11b-13]

「また、...のように h や t で終わらない名詞」

לם יקדרו יסמיו ולא יתסמאו לא פל כומיסיון ולא פי גירו כאן אלי

עמרהום תמנטעש לעאם ופוק. (لَمْ يَقْدَرُوا يَسْمِيُو وَلَا يَتَسْمَاوُ لَا فُلْ كَوْمِيسْيُونُ وَلَا فِي

غَيْرُو كَانَ أَلِي عَمْرَهُومُ تَمْنَطَعُشْ لِعَامٍ وَفُوقَ.) [NC:3-8]

「彼らは委員会においてもその他においても、18歳以上でなければ(他人を)任命できないしまた任命されることもできない。」

#### 4.6.4. (ליס / מוש ... לא ... ולא ...) ליס / מוש ... לא ... ולא

無動詞文の複数の主語、または述部に依存する複数の前置詞句を否定する。

וליסהו מתעדדי לא עלא תפאסר ולא \*תלמוד\* ולא גירהו. (وليسهو متعددي

لَا عَلَا تَفَاسِرْ وَلَا تَلْمُودُ وَلَا غَيْرُهُو.) [DZ:74c-30]

「また(その宗教は)注釈書、タルムードその他に従っているわけではない。」

מוש בכתרת לורק קימת אליברו ולא פי גלץ' אלכרש קימת אלראגיל.

(מוש בכרת לורק قیمت الیرو ولا في غلض الكرش قیمت الراجل.) [LA:4a-3]

「本の価値はページの多さではないし、男の価値は腹の大きさでもない。」

אלתעלים מוש מרבוט: לא פלמועללמין ולא פי שטאריתהם. (التعليم موش

مربوط لا فלמועלلمين ولا في شطارتهم.) [PE:8-14]

「教育は教員ともその能力とも結びついていない。」

## 5. 結論

今回取り扱った9つのテキストでは、無動詞文・名詞・形容詞・前置詞句などを否定する手段としては **ליס** (ليس) [DZ, EP, MA, ZI] または **מוש** (موش) [DZ, ED, LA, MA, PE, QA] が用いられる (NC ではこの種の否定が観察されなかった)。3人称に限られるが、接尾代名詞が付いた形 **ליסהו** (ليسهو), **ליסהא** (ليסהا) も DZ と ZI で観察された。EP に含まれる **שרח** (شرح) の部分では、はヘブライ語の **אין** が機械的に **ליס** と置き換えられ、文全体の否定に用いられる例が観察された。

動詞の否定に最も頻繁に用いられる **לם** (لم) および **ש ... מא** (ما ... ش) は TRJ の標準的な否定表現 *ma-...-š* の代替表現として接尾辞活用形、接頭辞活用形、疑似動詞の否定に用いられる。**לם** (لم) は [DZ, ED, MA, NC, QA, ZI] で、**ש ... מא** (ما ... ش) は [DZ, ED, EP, LA, MA, NC, PE, QA, ZI]、すなわち全テキストで観察され、両者の使用は殆ど無差別である。疑似動詞の否定にも **לם** (لم) が用いられることもあるが、用例は少ない。

比較的豊富な用例を得ることができ、トリボリの現代ユダヤ・アラビア語文法の編纂の一助となるが、今後は更に多くの文献の収集と分析を行い、今回の結果の改定を進めたい。

[ヘブライ語由来の語]

**בחורים** 青年 (pl.)

**בית הכנסת** シナゴーク

**בית ספר** 学校

**בית הספר התקווה** ティクバ (=希望) 校

**בני אדם (=בניאדם)** 人間 (pl.)

**גבאים** 徴税人 (pl.)

**דהיין** 即ち

**מורים** 男性教師 (pl.)

**מורות** 女性教師 (pl.)

**משה רבינו** 我らの師モーセ

**ספרים** 本 (pl.)

פרשה 注解書

צואה 糞

שבת シャバト (安息日)

תלמוד タルמוד

[参考文献]

[アラビア語原典]

[ ] 内は引用のための略号 (上記 2. を見よ)

- s.n. : אלציוניסם (טראבלס גרב 1920). [ZI =]  
בית ספר התקוה (טריפולי) : פעולתיו בשנת מתר'צב והתר'צג (טריפולי  
תרצ"ג-תרצ"ה). [PE =]  
דגל ציון : ג'רידה ציונייה, דינייה וסיאסייה תנטכע פי כל כמסטאש ליום מווקתא  
(1920-1925?). [DZ =]  
ההסתדרות הציונית, לוב. מחלקת החנוך בן יהודה : קבץ למדו עברית : ללמוד  
השפה העברית ודקדוקה, עם תרגום ערבית ואיטלקית ועזרה לבטוי בכתב לטיני  
(טראבלס 5693-5694). [LA =]  
חברת ציון : ניזאם חברת ציון ת"ב (טריבלס 1916). [NC =]  
מונאסתירן : תרתיבאת לבתי כנסיות (1930). [ED =]  
מיניסטירון המושבות & עדת ישראל : קואעד, לאגיל מועאמלאת קהל ישראל  
אלסאכנין פי עמאלת טראבלס / מתרגים מן אטליאן בלערבי אלפקהי ומשרוח  
בלסאן טראבלסי (טראבלס גרב 1917). [QA =]  
רבי חיים הכהן : הגדה של פסח, ערב פסח עם תרגום בשפה הערבית וכן דינים  
הנחוצים לחודש ניסן : רבי ראובן עגב, ובתוספת דינים בלשון ערב"י (מכון חי  
חי תש"ן). [EP =]  
רקח, גבראל די ויטוריו : מסאיל אלדי בנאדם ילזמו יערפהום : חוממא דבאיר  
ונצאיה / מלקקטין מן גבראל בן חואתו רקח (טריפולי תש"ד?). [MA =]

[二次資料]

- Blanc, *Baghdad* — H. Blanc, *Communal Dialects in Baghdad* (Harvard University Press 1964).
- Blau, *Grammar* — J. Blau, *A Grammar of Medieval Judaeo-Arabic* 2nd ed. (Jerusalem 1980) [in Hebrew].
- Blau, *Emergence* — J. Blau, *The Emergence and Linguistic Background of Judaeo-Arabic* 3rd ed. (Jerusalem 1999).
- Blau, *Handbook* — J. Blau, *A Handbook of Early Middle Arabic* (Jerusalem 2002).
- Blau & Hopkins, *Orthography* — J. Blau and S. Hopkins, "On Early Judaeo-Arabic Orthography" *Zeitschrift für Arabische Linguistik* 12 (1984) 9-27.
- Blau & Hopkins, *Papyri* — J. Blau and S. Hopkins, "Judaeo-Arabic papyri, collected, edited, translated and analysed" *JSAI* 9 (1987) 87-160.
- Cohen, *Juifs de Tunis* — D. Cohen, *Le parler arabe des juifs de Tunis* (The Hague - Paris 1975).
- Comrie, *Pseudoverb* — B. Comrie, "Pseudoverb" in *Encyclopedia of Arabic Language and Linguistics* vol. III (Brill 2008) 739-740.
- Encyclopaedia Judaica* 2nd ed. 19 vols. (Detroit 2007).

- Fischer, *Grammar* — W. Fischer, *A Grammar of Classical Arabic* 3rd rev. ed. translated by J. Rogders (New Haven & London 2002).
- Fischer & Jastrow, *Handbuch* — W. Fischer und O. Jastrow, *Handbuch der arabischen Dialekte* (Wiesbaden 1980).
- Hary, *Sociolinguistic Setting* — B. Hary, “Judeo-Arabic in its Sociolinguistic Setting” *Israel Oriental Studies* 15 (1995) 73-99.
- Hary, *Multiglossia* — B. Hary, *Multiglossia in Judeo-Arabic: with an edition, translation and grammatical study of the Cairene Purim scroll* (Brill 1992).
- Hary, *Egyptian Judeo-Arabic* — B. Hary, “On Later and Modern Egyptian Judeo-Arabic” in *Humanism, Culture and Language in the Near East: Studies in Honor of Georg Krotkoff* Afsaruddin & Zahniser eds. (Indiana 1997) 199-224.
- Khan, *Late Egyptian* — G. Khan, “Notes on the Grammar of a Late Egyptian Judaeo-Arabic Text” *JSAI* 15 (1992) 220-239.
- Pereira, *Tripoli* — Ch. Pereira, *Le Parler arabe de Tripoli (Libye) : phonologie, morphologie, morphosyntaxe et categories grammaticales*. unpub. doctoral dissertation (INALCO 2008).
- Saadun, *Tunisiya* — H. Saadun ed., *Tunisiyah* (Jerusalem 2005) [in Hebrew].
- Singer, *Tunis* — H.-R. Singer, *Grammatik der arabischen Mundart der Medina von Tunis* (Berlin, New York 1984).
- Tirosh-Becker, *Konstantin* — O. Tirosh-Becker, *Fonologiya u-Prakim be-morfologiya shel targum le-sefer Tehilim be-`aravit-yehudit mi-Konstantin (Aljerya)*. unpub. Master’s thesis (the Hebrew University of Jerusalem 1987-88) [in Hebrew]
- Wright, *Grammar* — W. Wright, *A Grammar of the Arabic Language* 3rd ed. II vols. (Cambridge 1896-1898).
- Yoda, *Tripoli* — S. Yoda, *The Arabic Dialect of the Jews in Tripoli (Libya): Grammar, text and glossary* (Wiesbaden 2005).
- 依田「トリポリ」—依田純和「トリボリのユダヤ教徒の文語アラビア語について」『関西アラブ研究』第4号（2004）63-75頁。